

令和4年度第1回小牧市こども自然体験活動事業委員会 議事要旨

《日 時》	令和4年5月19日(木) 午前10時00分～11時00分
《場 所》	小牧市役所 本庁舎3階 301会議室
《議 題》	令和3年度こども自然体験活動事業報告及び決算報告について 令和4年度こども自然体験活動事業計画案及び予算案について
《出席者》	委 員：山盛委員 伊藤委員 橋本委員 清水委員 杉山委員 柴田委員 岡田委員 中本委員 事 務 局：鍛冶屋部長 川尻次長 伊藤課長 若林係長 岩井指導員
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

1 あいさつ

〔こども未来部長〕

昨年度は、委員の皆様のご協力のもと、新たに兒の森クイズラリーを企画し、開催するなど、コロナ禍で子どもたちが様々な制限を受ける中ではありますが、感染防止対策を徹底した上で事業を実施することができました。大変ありがとうございました。

令和4年度に向け、新型コロナウイルスの感染症拡大状況によっては、計画した事業の延期中止、変更等があることがまだまだ想定される中でありますが、今年度も委員の皆様にご協力いただき、進めて参りたいと考えております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

2 役員の選出

委員長：山盛 英二 委員（再任） 副委員長：杉山 國雄 委員（再任）
監 事：橋本 保 委員（再任） 会 計：清水 豊 委員（再任）

〔委員長〕

子どもたちにとって最近、自然と関わるということが本当に少なくなっていると思います。そのような中、我々としては積極的に自然と触れ合う場を与えるという使命があるのではないかと感じております。

自然の中で子どもはいろんなことを学ぶと思いますので、今取り組んでいる活動が、今後も続けられていくということは非常に大切であると思います。

本日もいろいろなご意見をいただければ、非常にありがたく思いますので、よろしくお願ひします。

〔副委員長〕

子どもたちの自然体験活動が大事であると感じていますが、コロナ禍でどうやってやっていくのが一番良いのかということを考えておりますのでよろしくお願い致します。

2 議 題

(1) 令和3年度こども自然体験活動事業報告及び決算報告

・資料3・4に基づき事務局より説明

⇒事業報告及び決算報告について、報告どおりで承認を得られた。

委員長より、昨年度実施した事業の講師へ感想を求めた。

〔柴田委員〕

兒の森クイズラリーは、事業としては初めてのことだったのですが、参加されました方からも、非常に喜んでいただきまして、非常によかったと思っております。

20名、18家族の参加でしたが、活動自体はもう少し人数が増えても大丈夫だと思います。

〔橋本委員〕

参加された方は、こんなに高い山が小牧市にあるのだということを、実感していました。小牧市の高い山というと、誰しもが小牧山と言いますが、兒の森のハイキングを通して、270数メートルの高い山があるということを発見していただけました。

〔清水委員〕

7月のふれあいの森の自然観察では昆虫観察をメインに行いました。あるお父さんがクワガタを見つけたので子どもたちで、ジャンケンをして少し持ち帰ってもらったりというようなことを行いました。11月の四季の森での自然観察は、落ち葉や木の実のシーズンでしたので、落ち葉や葉っぱをラミネートに挟んでしおりづくりなどを行い、楽しむことができました。

〔柴田委員〕

兒の森での整備作業の方につきましては、第1第3日曜日ということで、毎回活動しています。夏場については草刈が中心になりますが、10月以降は、枯れ木とか倒木の処理というような形が中心になります。毎回それぞれやるものがたくさんありますので、全山にはまだ手が及ばないような状況ですが、一般の方が通られる山道を中心に整備をしています。

活動日には毎回20人近くの方が参加されます。平均年齢は結構高くなりますので、なるべく若い方にもっと入っていただきたいというようなこともあり、市民まつりやイベント等に参加し、あらゆる場でPRをしています。活動メンバーも小牧市民だけでなく、様々な地域からも参加をいただいています。

(2) 令和4年度こども自然体験活動事業計画案及び予算案

・資料6、資料7に基づき事務局より説明

*次のような質問があった。

〔山盛委員〕

予算について修繕を計上してありますが、なにか予定があるのでしょうか。

〔事務局〕

今のところ特に予定はありません。緊急的なものを想定しています。

〔山盛委員〕

兒の森のトイレの修理はこの予算ですか。

〔事務局〕

兒の森のトイレ修理は別の予算があります。

⇒事業計画及び予算について、説明どおりで承認を得られた。

3 その他

(1) こども自然体験活動事業の今後について

事務局より、資料8に基づき、こども自然体験活動事業について事業の内容が自然体験から自然観察中心へと移行していること、また、新たな自然体験活動の場を提供することが難しいことにより、令和4年度をもって、本委員会を解散し、学校外活動運営委員会と統合するという方向で検討を進めていることを説明した。

〔岡田委員〕

統合されるということは、今年度までは別々だということそれぞれに申し込みができたと思うのですが、来年度はこのジュニアセミナーの中に位置付けられるということだと、例えばジュニアセミナーが32講座となり、申し込みに関して第1希望、第2希望、第3希望とあり、3つまで選ぶということになるという認識でよろしかったですか。

〔事務局〕

ジュニアセミナーに入れると、選べる講座が少なくなってしまうので、今まで通りジュニアセミナーとは別で、いろいろな体験という形で自然体験は、参加したい講座をいくつでも選べるという形のままにしていきたいと考えています。

〔橋本委員〕

私は、伊藤委員とともに、2002年の委員会発足当時からの委員会の委員で、自然体験活動の言い出しは私でした。

当時、家族でキャンプをするという事業をやっていたら、親が川の中に入るのに汚いなど言っている姿を見て、小牧市でも、子どもたちに泥遊びをさせてあげたいと思ったのが委員会の発足の一番最初の発端でした。

大山区の休耕田をお借りし、池にして、川の魚（フナやドジョウ）を入れて、泥遊びを行うというのがこども自然体験活動事業のはじまりでした。その後、森で子どもたち

を遊ばせたいということから兒の森がオープンし、自然体験をできる場ができました。

兒の森のルート作成にも携わっており、どんぐりの小道をバリアフリーにしたことで、当初、車いすの方が初めて登った際に、頂いた言葉からも兒の森をオープンしてよかったと感じていました。

そんな中、近年は自然体験の場がなくなってしまったことは寂しくも思いますが、20年という節目もあり、委員会の解散はきりがよいと思います。

〔柴田委員〕

こども自然体験活動事業委員会と学校外活動事業運営委員会の違いは何ですか。

〔事務局〕

こども自然体験活動事業委員会の方が古くからありまして、こどもたちの自然体験活動を行う機会、場を提供するという目的で設置されました。そのあと、学校外活動運営委員会というのが平成19年にでき、例えば、科学の工作やプログラミングなど、文化活動などの体験を公共施設等で行うものになります。

〔柴田委員〕

来年度からはどのように募集をしていくのでしょうか。

〔事務局〕

今後は学校外活動事業の中に、ジュニアセミナーと、その他の自然体験という形になるというようなイメージで募集を行いたいと考えています。

また、委員会としては、両方をまとめて、学校外活動委員会でもって、審議をするということを現在は考えていますが、今後やっていく中で、不都合などがあれば、変更等は行っていきたいと思っています。

〔柴田委員〕

ジュニアセミナーの委員の方はどんな方が就任されていますか。

〔事務局〕

講座を行う講師の方々が中心です。あとは、学校の先生等、そのような方が委員として就任いただいています。

〔柴田委員〕

その中に自然体験活動の委員も入っていくのですか。

〔事務局〕

その予定です。

〔山盛委員〕

継続して子供たちを学校外の活動を通して育てていくには組織編成が非常に重要になってくると思います。

橋本委員のようなノウハウのある方を手放してしまうのは非常にもったいないので、自然とのかかわりを小牧市のメインとして行っていく上で、橋本委員のような方には何らかの形で継続して取り組んでいただけるとありがたいと思います。

〔清水委員〕

もともと、こども自然体験活動は子どもたちの体験活動が少なくなってきたので、何とかそういう活動を市で、やっていくことができないのかなということで行われてきた事業で、ジュニアセミナーの方は、学校週5日制が始まって、土日の子どもたちの受け皿がなかなかないため、そういったことも今度配慮していかなければいけないというようなことからスタートしてきたような事業だというふうに記憶しています。

2つの事業が同時進行で行われてきたのですが、大山区の方にお世話になりながら、わくわく体験広場を管理していただけたおかげで活動を続けていくことができました。

高齢化による事業の見直しや、コロナによって市の方の予算等も厳しくなってきているので、そういったようなところも考慮して、事業の統一化という形で、今後、事業を見直していけば良いのではないかと考えています。

子どもたちの自然体験活動ということで、これまで、20年ほど継続して小学生を対象に親子で自然に親しむ会を行っていました。

また、兒の森についても検討会に委員として参加するなど、これまで様々な活動に携わらせていただいていたと思います。ジュニアセミナーにも講師として携わっており、2つの事業を1つにまとめて、子どもたちにとって良い方向に持っていければよいと思っています。

〔伊藤委員〕

応募チラシに自然体験活動はジュニアセミナーではありませんと記載してある通り、統合したとしても、この記載の仕方でよいと思います。

子どもたちが自然の中で生き物と触れ合う場を小さいころから設けるなど、今後も自然体験活動は続けていかなければならないと思います。

〔中本委員〕

この会に初めて参加する立場ではありますが、これまでジュニアセミナーに関しては、年度当初に子どもたちに配って、募集が終わったら、申込書を提出するというくらいの関わりでしたが、これまでとても沢山の方が、ご尽力されていたということを知り、とても素晴らしい活動であると思いました。

ぜひ、2つの事業が統合されても良い形で、続けていければと思っています。

学校側からも、上手くもっと情報宣伝ができれば、もっと盛り上がるのではないかと、いうふうに思いました。

〔杉山委員〕

それぞれその時の社会の流れに合わせて、このような活動も変わらざるを得ないということはあると思います。子どもたちがいつまでも元気に活動ができるよう、市の方にも考えていただき、やれる人を発掘していただきたいです。

今の子どもたちは自然に目を向ける機会が少なくなっているため、子どもたちの視野を広げる形で、いろんな方が携わっていただけると良いと思います。

〔事務局〕

ただいま皆様の意見を拝聴すると、この事業については、何らかの形で存続していきたいという方向性は確認させていただけたと思います。

今までは、こども自然体験活動事業のこの委員会への委託、それからジュニアセミナーは学校外活動運営委員会に委託という2つに委託という形で事務的処理を行っていましたが、今後は、事業は1つにして、両方の事業を存続していきたいと思っています。先ほど山盛委員長からも、組織編成も重要だというようなお話をいただきましたので、今日いただいた意見を取りまとめ、来年度の講座を考えていただくにあたってもどのような形になるかというところが重要だと思いますので、委員長、副委員長に少しご相談をさせていただきながら再度会議を開かせていただくのか、書面にて了解をいただくのかということで進めていきたいと思っています。

→**委員了解**

〔事務局〕

6月に、学校外活動運営委員会を予定しています。

そちらの委員会においても、2つの事業を1つにするという方向性があるということをご報告させていただき、意見をいただいきたいと思っていますので、本日のところは意見聴取のみになりますが、よろしくお願ひします。

なお、今後のスケジュールについては、第2回目の会議を開催する場合には9月を目途に行いたいと思います。

会議を開かないという場合につきましても、ご連絡をさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。